

CASBEE 京都-新築

標準システム

■使用評価マニュアル：CASBEE-京都-建築(新築)2018年版 | 使用評価ソフト：CASBEE京都-新築2018 (v.1.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)山科区大塚北満町老人ホーム新築工事(平井様)	階数	地上4F
建設地	京都府京都市山科区大塚北満町15番2、17番、18番1、19番1	構造	S造
用途地域	第2種中高層住居専用,近隣商業,準防火地域	平均居住人員	64 人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	病院,	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2019年7月 予定	評価の実施日	2018年8月24日
敷地面積	1,279.17 m ²	作成者	高月 貴司
建築面積	729.75 m ²	確認日	2018年8月27日
延床面積	2,252.40 m ²	確認者	高月 貴司



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.0

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質 Qのスコア = 2.8

Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.1

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 2.7

Q3 室外環境 (敷地内)

Q3のスコア = 2.5

LR 環境負荷低減性 LRのスコア = 3.1

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.5

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 2.6

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.2

3 設計上の配慮事項		
総合	建物形状や色彩等に配慮して、周辺環境に合致したデザインにしている。	その他 工事中における廃棄物削減、リサイクルについては可能な範囲内で配慮する。
Q1 室内環境	建物を全体的にF☆☆☆☆を採用し空気質環境の向上を配慮する。外部に接する建具については遮音T-1を設置し遮音対策に配慮する。	Q3 室外環境 (敷地内) 道路沿いに緑地を設け周辺環境に配慮する。
LR1 エネルギー	照明器具にLEDを使用。	LR3 敷地外環境 ライフサイクルCO ₂ 排出率に考慮する。
Q2 サービス性能	情報通信設備を装備する。	
LR2 資源・マテリアル	特になし。	

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される